

# ◆ 「『深い学び』を具現する授業デザイン例」について

令和5年度の相双教育アピールのキャッチフレーズは、「新しい学びのかたちを相双から」です。

令和3年1月の中央教育審議会により取りまとめられた、これからの時代にふさわしい初等中等教育の在り方に関する答申を踏まえ、相双教育事務所からも新しい時代に対応した学びのかたちを発信していくことが必要であると考えています。

そこで、今、求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向けて、授業展開の一例などを示した「主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント」と「『深い学び』を具現する授業デザイン例」を作成しました。是非ご活用ください。

## その1：主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント

教科	社会(小)
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
教科	社会(中)
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
(1) 問題解決的な学習過程の充実	単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させる。
(2) 単元等まとまりを見通した学びの重要性	単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するのか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。
(3) 問いを意識する	問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元等の学習の問題はもとより、生徒の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。教師が教材や資料を準備する際には、各分野における見方・考え方を踏まえた問いを意識することが大切である。
(4) 言語活動の充実	

福島県教育委員会発行「令和4年度福島県小・中学校教育課程研究協議会資料」から、各教科の「**主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント**」を掲載しています。

小学校と中学校のつながり、指導の系統性が見えるように、上下に併記しています。

## その2：「深い学び」を具現する授業デザイン例（各教科）

**「深い学び」を具現する授業デザイン例 社会(中)**

学習指導要領における領域・内容  
 中学校 地理的分野  
 A(1)ア(イ) 我が国の国土の位置、世界各地の時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解すること。

本時のねらい  
 太陽に見立てた懐中電灯と地球儀を用いて標準時について調べる活動を通して、時差が生じる理由を説明することができる。

授業デザイン例	学習者の視点	授業者の視点
<p>「僕たちが住んでいる日本はお昼なのに、ロンドンはまだ暗いわね。」</p> <p>「ハワイは時間だけでなくて日付も違う！」</p> <p>「国の位置が違うからかな。」</p> <p>「生活が崩壊しちゃうからかな。」</p> <p>「地球儀を回してみよう！右回り？左回り？」</p> <p>「太陽の光が当たっている所が昼中ね。」</p> <p>「太陽の光が当たっていないところが夜だよ。」</p> <p>「お昼の場所もあるんだね。」</p> <p>「お昼や夜に合った時間にする必要があるね！」</p> <p>「12時なのに4時だったら時間の感覚がおかしくなっちゃう！国ごとに時刻が決まってるって不思議だね！」</p> <p>「360度÷24時間＝15度だから、経度が15度違うと、時差が1時間になるんだ！ロンドンとの時差は9時間で、経度が135度違うから…」</p>	<p>「僕たちが住んでいる日本はお昼なのに、ロンドンはまだ暗いわね。」</p> <p>「ハワイは時間だけでなくて日付も違う！」</p> <p>「国の位置が違うからかな。」</p> <p>「生活が崩壊しちゃうからかな。」</p> <p>「地球儀を回してみよう！右回り？左回り？」</p> <p>「太陽の光が当たっている所が昼中ね。」</p> <p>「太陽の光が当たっていないところが夜だよ。」</p> <p>「お昼の場所もあるんだね。」</p> <p>「お昼や夜に合った時間にする必要があるね！」</p> <p>「12時なのに4時だったら時間の感覚がおかしくなっちゃう！国ごとに時刻が決まってるって不思議だね！」</p> <p>「360度÷24時間＝15度だから、経度が15度違うと、時差が1時間になるんだ！ロンドンとの時差は9時間で、経度が135度違うから…」</p>	<p>「ファイブカメラで現在の世界の様子をみましょう。何か疑問に思うことはありませんか？」</p> <p>イギリス ロンドン 2/2 4:00</p> <p>日本 福島 2/2 13:00</p> <p>アメリカ ハワイ 2/1 10:00</p> <p>「国によって時刻が違うのはどうしてでしょうか？予想してみましょう。」</p> <p>「では、懐中電灯を太陽に見立てて、懐中電灯と地球儀を使ってその理由を説明してみましょう。」</p> <p>「もし今から世界中がロンドンと同じ時刻になったらどうですか？」</p> <p>「国ごとに時刻が決まっているから、時刻の違いが生じるんですね。その違いを「時差」と言います。」</p> <p>「地球は24時間で360度回転することから、「時差」を計算で求める方法を考えましょう。ロンドンやハワイは何度の経線にあるか、地図帳で位置を確認しましょう。」</p>

本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問

□ 標準時や時差の必要性を生徒自身に気付かせるための体験的な活動や問いによって、それぞれの国で時刻が異なる理由について実感を伴った理解につなげたい。その上で「時差」という語句を伝えることで、時差についての理解を深めることが期待できる。(視点N～視点U)

今年度は、新たに以下の9つの授業デザイン例を追加しました。

- ・国語(小学校3学年)
- ・社会(小学校3学年)
- ・社会(小学校4学年)
- ・社会(小学校6学年)
- ・数学(2学年)
- ・理科(小学校6学年)
- ・図画工作(1、2学年)
- ・保健体育(1、2学年)
- ・外国語〔英語〕(中学校1学年)

「深い学び」のカギとなる授業者の仕掛けや発問は、太線で囲んでいます。

令和5年度相双教育アピールに掲載されている「『学習者』の視点(①～⑩)と『授業者』の視点(A～U)」を踏まえて、授業デザイン例を作成しました。双方の視点が往還することによって、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながります。

「本時における『深い学び』を具現する仕掛けや発問」について、ポイントをまとめました。